

儀礼知識の伝承に関する研究

——身体コミュニケーションによる伝承とテキストによる伝承から——

A Study of Transmission of Ritual Knowledge

With a Particular Focus on Body Movements and Written Texts as Media for Communication

廣田 律子

HIROTA Ritsuko

要 旨

祭祀儀礼で儀礼の実践に必要な所作や演技の所作などは身体表現にかかわり、口頭や身体コミュニケーションによって伝承される。身体コミュニケーションによって伝承される儀礼知識は個人の解釈や記憶の変容、さらに外的な影響など差異を生じる要因を多く有している。身体コミュニケーションによる伝承では模倣行為が実行される。受礼の場で模倣することによって儀礼の実践に必要な所作が伝承され、宗教職能者としての方術を修得することになる。模倣行為、ものまねはもともと神に扮して行動を再現することと考えられ、呪術的な意味を有している。

さらにテキストを有する宗教職能者の場合、儀礼の場面で複数のテキストを使い分け、テキストの読誦によって儀礼が進行される。儀礼の構成において儀礼の規模の大小を問わず、基本的な骨組みが共通するのも、テキストが儀礼を規定していることに起因すると考えられる。共通して行なわれる儀礼分節では同一のテキストが使用されるわけだが、このことによりどんなに複雑な儀礼にも対応が可能となる。儀礼の継承にはテキストの役割が大きく働いているといえる。儀礼の実践の場においては、テキストの使用にあたって宗教職能者の経験の積み重ね、つまり儀礼知識が不可欠といえ、儀礼知識の伝承はテキストの使用においても重要なかかわりを有するといえる。

さらに儀礼の進行にはテキストの読誦に加え、必ず唱えごとや舞やマジカルな手や足の所作がはさまれており、伝承媒体を異にする身体コミュニケーションとテキストによる伝承が複雑に組み合わせられているといえる。

本論では中国江西省南豊県三溪郷石郵村で春節に漢族により行なわれる、仮面神が家々を来訪し災いを祓い福を招く追儺の祭りおよび中国湖南省藍山県滙源郷湘藍村の過山系ヤオ族の宗教職能者が祭司を務めるイニシエーションを事例とし、身体コミュニケーションとテキストによる伝承の両面から儀礼知識の伝承について考察を試みる。

【キーワード】 身体、テキスト、伝承、祭祀儀礼、中国

1. 身体コミュニケーションによる儀礼知識の伝承

祭祀儀礼で儀礼の実践に必要な所作や演技の所作などは身体表現にかかわり、口頭や身体コミュニケーションによって伝承される。身体コミュニケーションによって伝承される儀礼知識は個人の解釈や記憶の変容、さらに外的な影響など差異を生じる要因を多く有している。

さらに身体コミュニケーションによる伝承では模倣行為が実行される。受礼の場で模倣することによって儀礼の実践に必要な所作が伝承され、宗教職能者としての方術を修得することになる。模倣行為、ものまねはもともと神に扮して行動を再現することと考えられ、呪術的な意味を有している。

中国江西省南豊県三溪郷石郵村で春節に漢族により行なわれる、仮面神が家々を来訪し災いを祓い福を招く追儺の祭り及び中国湖南省藍山県滙源郷湘藍村（図1）の過山系ヤオ族の宗教職能者が祭司を務める通過儀礼⁽¹⁾を事例とし説明を試みる。

1) 祭祀儀礼の場1 江西省南豊県三溪郷石郵村漢族追儺行事

江西省南西部に位置する南豊県の村々には、儺神を祀る廟があり、ここを中心に旧正月に災いを祓い清め福を招こうとする追儺行事が行なわれる。仮面の神々が家々を来訪し、除災招福を行なう。南豊県県城から南西に20 km離れた石郵村に伝わる追儺は方相氏以来の古い形の追儺を保っている貴重な例で、記録では明代にはじめられたとされる。村の人口の半分以上を占める、呉一族の繁栄を願って行なわれるが、仮面をつける演者は、本来大姓呉氏以外の雑姓の男性8人と決められている。旧正月の1日から9日は石郵村、10日から16日までは他村の一軒一軒を回り

図1 中国全域図





写真1 石郵村において、仮面神が家々を回り、除災招福を行なう。カメラが並び、子どもたちが演者をまねる。

『開山』『紙銭』『雷公』『儺公儺婆』『醉酒・酒壺仔』『跳橈』『雙伯郎』『関公祭刀』の演目が演じられる。16日夜から翌未明まで夜通しで大鬼・開山・鍾馗が石郵村全戸を回り追儺が行なわれる⁽²⁾。

現在の演技は一つ一つの所作のキレがよくなり、めりはりがある動きとなり、20年前と比べ差異が見られる。これはこの追儺行事が国家の無形文化財に指定されたことにより、取材のカメラの台数が増すという外的な変化のほか、演者自身の意識にも変化が生まれ、さらに経験を積み新たな解釈を加えたことによると考える。

子どもたちは仮面神に親しみをもって接し、積極的に仮面神の動きを模倣して学修しようとしており、毎年繰り返し学修が行なわれる(写真1)。

この事例は伝統的な芸能の伝承に普遍的に見られる現象を示しているといえる。

2) 祭祀儀礼の場2 湖南省藍山県過山系ヤオ族通過儀礼

湖南省の西南に位置し広東省に隣接する藍山県に居住する過山系ヤオ(ミエン)族の伝承する還家愿儀礼は、受礼者が宗教職能者となる法名を得、家を継ぎ先祖の祀りを行なう資格を得、先祖の法名を連ねた家先単に自身の法名が加えられ死後祀られる資格を得るために行なわれる掛家灯(掛三灯)儀礼が中心となる。さらに以前行なわれた願掛けが成就したことに対する願ほどの儀礼、さらなる願掛けの儀礼、さらに盤王を祀る儀礼が行なわれる。

ヤオ族の儀礼は、その規模の大小にもよるがテキスト(経典)の読誦と口頭による唱えごと、発行される文書、



写真2 掛三灯 ステップの伝授



写真3 補掛三灯 舞の伝授



写真4 補掛三灯 角笛の吹き方の伝授



写真5 掛十二灯 12の灯明を点す



写真6 掛十二灯 開天門の伝授

符の作成、マジカルなステップ（罡歩）、マジカルな手の表現（手訣）、舞踊、鈴や角笛の奏楽等を重要な構成要素として成立している。

儀礼はテキストの読誦により進行されるためテキストは儀礼を相当程度規定する役割を果たしている。

儀礼の実践では、テキストの読誦だけでなく罡歩や手訣のほか種々な呪術的所作、身体表現が行なわれる。

宗教職能者となる通過儀礼は、掛家灯（掛三灯）と称され、ヤオ族男性は必ず経なければならないとされる。宗教職能者の始祖と考えられている李天師の後代に連なる宗教職能者として必要な方術の伝授が行なわれる。

掛家灯の儀礼分節の「学打羅」（ドラの打ち方を学ぶ）、「学吹牛角」（角笛の吹き方を学ぶ）、「学用鈴」（鈴の鳴らし方を学ぶ）、「学走罡歩」（マジカルなステップを学ぶ）、「学舞学揺鈴」（舞を学ぶ）の場面では、師匠である先輩の宗教職能者が受礼者に対してドラの敲き方や角笛の吹き方や、法具の鈴の鳴らし方やマジカルなステップの踏み方の罡歩そして舞を手取り足取り教え、宗教職能者としての方術の伝授を行なう（写真2、3、4）。ここで師匠の宗教職能者の動作をまねるという行為が行なわれる。この宗教職能者から受礼者への方術の伝授において行なわれるまねるという行為、学修して再現するという行為、模倣と再現は、宗教職能者としての能力を獲得することを意味し、神との種々の通信手段を得ることになる。そして、ヤオ族の男性として祖先を祀り、宗教職能者としての正しい道を歩みはじめることにつながる。まねることからはじめるわけだが、まねること自体祭祀性の強い段階の芸能において、重要な身体コミュニケーションによる伝承方法といえる。

ここで還家愿儀礼に関連する度戒儀礼の事例を追加してさらに考察を進めたい。還家愿儀礼において実施される掛家灯は三つの灯明をともし儀礼とされるが、さらに宗教職能者としての最高位の



写真7 上刀山の試練 踏み板が剣でできたはしごを登る



写真8 過勒床の試練 陰界に行って戻ってくる



写真9 捧火磚の試練 熱いものを手にする

階位を獲得するために行なわれる度戒儀礼の中で実施される12の灯明をともし儀礼では、難易度がさらに高い、開天門と称される方術が伝授される(写真5、6)。この開天門は呪文が唱えられ、神への文書が紙銭と共に焚かれ、牛角が吹き鳴らされ、卜具が用いられるといった一連の所作が行なわれるが、これは天の門を開け、陰兵を導く儀礼とされる。この場合も師匠の宗教職能者にまねて、学修し、再現する方法で方術が伝授される。

さらに度戒儀礼においては、掛灯儀礼のほかに、受礼者が経なければならないとされる試練においても、師匠の宗教職能者が手本を見せた上、同様のことを受礼者がまねて行なう。この試練は陰界に下ってまたこの世に戻って来るとされ、死と再生を象徴して行なわれる翻刀山・過水槽・過勒床と、実体験として踏み板が剣でできたはしごに登ったり熱した石や鉄製の犁先をもち運ぼうとする上刀山・捧火磚からなる(写真7、8、9)。試練を行なうにあたり、まず師匠の宗教職能者が挑戦し、受礼者はそれに続いて行なう。宗教職能者は自ら実践することで指導を行ない、受礼者はそれを模倣して行なうことで、宗教職能者としての能力を獲得するために必要とされる経験を経ることになり、結果的に高位の宗教職能者に加わることになる。宗教職能者の継承において、同じ経験をすることは不可欠であり、先達のまねをすることからはじまるといえる。

中国の儀礼の場に見られる、模倣という身体コミュニケーションによる伝承を紹介した。模倣により伝統芸能が継承される事例と神と交信する儀礼を行なうのに不可欠な方術を会得し、また宗教

職能者としての資格を獲得することになる事例を示した。古代の日本では模倣的演技はものまねとされ、神に扮して神の行動を再現することを意味するとされ現在の演技に通じ、芸能の発生にも関連し⁽³⁾、ものまねをすること自体呪術的な意味をもつと考えられていた。神の所業の模倣が演技に繋がるとするならば、宗教職能者としての方術の伝授における模倣も演技であると、芸能の萌芽であると考えられる。

2. テキストによる儀礼知識の伝承

模倣をキーワードとして身体コミュニケーションによる伝承の視点から掛家灯（掛三灯）儀礼に見られる方術の伝承をとらえてきたが、実際の掛家灯儀礼はテキスト（漢字経典）の読誦によって進行されている。儀礼知識の伝承がテキストの使用によって行なわれるケースについて論じていきたい。

ヤオ族の宗教職能者は大変多くの手書きの漢字経典を所有しており、儀礼の場面場面で複数のテキストを使い分ける。テキストの所有や使用の状況からは、漢字へのあこがれ、執着すらも感じさせる。呪力をもつと考えられている言語詞章は漢字で書き記されているが故に、それを読誦するとよりパワーが発揮されると信じられているかのようなのである。読誦するときは、テキストの漢字はすべてヤオ語読みがされ、儀礼の内容に従ってフシがつけられる。このヤオ語読みは日常生活では使用されない特別なものである。さらに、七言上下双句で構成された文の場合など、上句 → 下句 → 上句の下三文字 → 下句と一定の形式とリズムをもつ歌の形式を取って読誦される。テキストの使用方法も大変複雑であるといえる。

1) 祭祀儀礼の場 1 掛家灯儀礼

さて儀礼でのテキストの使用実態について、度戒儀礼において実施された掛家灯儀礼のイニシエーションを経ていない受礼者に対して行なわれた補掛三灯儀礼の詳しい程序を用いて明らかにしたい（表1）。

表1 補掛三灯儀礼程序⁽⁴⁾

儀礼分節	内 容
1. 請師	<p>神々を招請する。</p> <p>告頭連連、開告三声、大王搞過年年歳歳、歳歳年年。搞過大至王管下過了民国、過了公元以来。幾年幾月幾日、衆堂会道少欠三灯之人。今日補掛三盞明灯、接代香烟。第一爐明香、請上。衆会首上壇兵馬、下壇兵將、伏江盤王聖帝。王（ママ）竜司命灶君、衆壇会道（ママ）、衆住家祖家先（ママ）、衆神王神將（ママ）。主醮引度証明、保主帶來三清兵馬三清兵將。総壇座壇師爺、帶來衆壇太歳（ママ）、太歳衆官、海番（ママ）張召二郎、大葛將軍。衆位衆祖先、師男衆位（受礼者の名生年の書かれた『醮壇人民単』の該当頁に記された受礼者及び祖先の名をここで読む）、師父（祭司の掛三灯時及び度戒時の師父の名を唱える）為車下降、排前坐位、男排左女排右、男排上女排下、依神点点、打開瓶中谷花酒献上。第一献上下車之酒、第二落馬酒杯、第三有肉酒中席齊。安排鑼位、不听功曹使者、不听別方孤神雜言。且听師男馬頭意者。意者已過、谷花米酒三献、一杯献二杯、二杯献上三杯。千人同盞万人同杯。以上3回唱える。酒を注ぐ。</p> <p>交納補掛3灯、接代香烟、下車下馬銀錢、擁護師男來做銀錢</p> <p>以上唱え、紙錢を積む。</p> <p>また『醮壇人民単』の該当頁に記された受礼者及び祖先の名を唱える。</p>
2. 勅変水 (米・布・錢・櫂)・打櫂	<p>儀礼に用いる米・布・錢・櫂を水と剣により浄化する。</p>
2-1. 勅変水	<p>テキストを読誦する。</p> <p>此水不是非凡之水、天上敢來雲霧之水、地下去來九龍之水、山中敢來楊柳之水、江中敢來長流之水、井中去來養人之（水）、塘中敢來養魚之水、田中敢來養禾之水、中取來一變化為洒淨之水、二變此水化為觀音楊柳之水、三變此水為真武之水、四變此水化為五雷殿上之水、五變此水化為八大金剛之水、六變此水化為三壇之水、連連化為雲霧之水、邪鬼自滅、吾奉太上老君急急如令勅</p>

儀礼分節	内 容
2-2. 勅変米	テキストを読誦する。 此米不是非凡之米、米是化為天星養人之米、吾師將來化為千兵万馬、拋散速上壇前、將來拋把師男、速變速化、速速化變、吾奉太上老君急急如令勅
2-3. 勅変布	テキストを読誦する。 此布不是非凡之布、布是化為三尺六寸、白布化為青竹、蛇化為金橋、吾師將來、拋把師男、速變速化、吾奉太上老君急急如令勅
2-4. 勅変錢	テキストを読誦する。 此錢不是非凡之錢、錢是三十六文銅錢、化為三十六名雄兵、吾師將來、拋把師男、速變速化、吾奉太上老君急急如令勅
2-5. 勅変櫪	テキストを読誦する。 此櫪不是非凡之櫪、化為老君之櫪、化金鑾寶殿、吾師將來、拋把師男、吾奉太上老君急急如令勅 変じたか卦具で確認する。 師男勅第一、第二師父勅第三、陰告變成第三次 以上唱える。
2-6. 打櫪	テキストを読誦する。 一打櫪頭立獅子 二打櫪尾立麒麟 麒麟獅子兩辺立 叫你傷鬼莫傷人
3. 昇櫪	法服・法冠を載せた腰掛けを入口に運び戸外に向かい唱える。 本方地主、本部廟王、元宵神功、土地公、土地婆、金剛大將、過往神童、求財八保郎君、鑒齋大王、天斗星、七星姐妹、把門將軍、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明内側に戻り唱える。 元始天尊、靈宝天尊、道德天尊、玉皇聖主、張天師、李天師、鑒齋使者、十殿閻王、天府地府陽間水府、王靈官、馬元帥、上路天兵、下落地將、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 總壇太歲、太歲衆官、海番張召二郎、唐葛將軍、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 三廟聖王、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 陰陽師父（祭司の度戒時の師父名）、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 上壇兵馬、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 下壇兵將、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 福江盤王、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 五竜司命灶君、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 宅住竜神、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 衆祖家先、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 神王神將、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 仙姑姐妹、今日衆法補掛三灯。当天当地、昇老君之櫪、大家為本作証、証明、証明。 3回唱えるが、1回目2回目は順に、3回目は仙姑姐妹から元始天尊へ逆に唱える。
4. 穿衣	受礼者は法服に着替える。テキストを読誦する。 櫪頭立條殺鬼鍬 櫪尾立條殺鬼槍 師男坐落金磚内 強如江水一缸長 吾奉太上老君急急如令勅 師男頭代金冠帽 右手執印入香門 口中常唵老君法 口念老君法令行 手執梅山 真正訣 又執梅山滅鬼磨 穿衣帶帽の舞を舞う。
5. 踏蓮花	腰掛けに座った受礼者の足の下に碗を入れる。 テキストを読誦する。 左脚又踏蓮花朶 右脚又踏蓮花磚 吾師來到法壇下 千兵万馬付師男 吾奉太上老君急急如令勅
6. 取伏断	祭司は紙銭を丸め受礼者の頭を越え外に向かって投げ、受礼者の煞を祓う。 取起暗金伏断殺、投中有暗金伏断、頭上取出、眼中有眼中取出。口中打落中口取出。手中打落手中取出、肚中有伏断肚中取出。脚中打落脚中取出。取出第一第二第三一便 卜具で祓われたかどうか判断し、陰卦で取、陽卦で飛と判断される。
7. 歳身	腰掛けに座った受礼者の周りを東南西北に回る。 テキストを読誦する。 勅変吾身頭上化為大葫蘆、頭髮化為松柏○、左眼化為星、右眼化為月、

儀礼分節	内 容
	左眉化為鉄鈎、右眉化為鉄鈎、 左耳化為左太山、右耳化為右太山、 左鼻化為左高山、右鼻化為右高山、 口中化為大石岩、小石岩、上齒化為鉄、 下（齒）化為鉄、左手化為殺鬼○、右手化為殺鬼邪、肚内化為大禾倉、小禾倉、大腸化為大南蛇、小南蛇、左脚化為竜、右化虎、衣衫化為葉、大浪丁夫、小浪丁地、左邊化獅子、右邊化為麒麟、寄在老君殿上好収蔵、寄在仙人肚内収蔵、三尊界過羅剛靈神、尋不見靈、鬼無踪無踪無踪、吾奉太上老君急急如令勅 （ ）は筆者の推測。
8. 起寸	祭司が受礼者の周りで一方の腕を立て、ひじを一方のげんこつで支える動作を行なう。 テキストを読誦する。 東方起銅寸鉄寸 寸得師男不流計 南方起銅寸鉄寸 寸得師男不流計 西方起銅寸鉄寸 寸得師男不流計 北方起銅寸鉄寸 寸得師男不流計 中央起銅寸鉄寸 寸得師男不流計
9. 変吾身	祭司が受礼者の周りで手を広げる動作を行なう。老君真道を行く身体となる。 テキストを読誦する。 謹請三尊變吾身 万鬼除邪不敢問 九帝高尊同變化 鉄城裡内好蔵身 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 謹請地師好蔵身 飛等金甲好蔵身 吾師蔵過無踪跡 羅城裡内好蔵身 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 謹請天師變吾身 本師變吾身 祖師變吾身 本師變吾身 急急變吾前 急急變吾後 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 謹請天師（無）蓋吾身 地師（無）蓋蓋吾身 祖師（無）蓋蓋吾身 本師（無）蓋蓋吾身 急急蓋吾前 急急蓋 吾後 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 頭上又立青雲過 又立紫雲脚下安 太上老君李仙仁 身騎白馬入青雲 手把鐮刀卦師弟 上元二聖坐壇前 海幡張召二郎壇前坐 照見壇前照甲兵 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 祭司は玉簡（笏）をもって舞う動作、野鬼を祓う。 テキストを読誦する。 東方謝不着 南方謝不着 西方謝不着 北方謝不着 中央謝起金弓鉏 吾師化着鉄鉏子 飛入仙人肚内好蔵身 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 東方射起金彈鉏 弓起南方白鬼頭 南方白鬼不抬頭 西方射起金弓鉏 鉏北方起白鬼頭 北方白鬼走無踪 中央射起金弓鉏 鉏起五方白鬼頭 五方白鬼鉏上天 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える） 東方射起金弓箭 箭南（ママ）方起白鬼驚 南方白鬼不來臨 南方射起金弓箭 箭起西方白鬼胸 西方射起鬼無踪 西方射起金弓箭 箭起北方白鬼腰 北方白鬼不超頭 北方射起金弓箭 ○起中央白鬼○ 中央白鬼急作開 中央射起金弓箭 箭起五方白鬼連 五方白鬼射上天 吾奉太上老君急急如令勅（この部分は唱える）
10. 昇灯	盆に灯明を載せ戸口まで運び外へ向ける。 次のように唱える。 立齊、本方地主、本部廟王、為本作証。師男昇起第一盞明灯、李十六盞灯、本十六盞灯是常念頭。師男受得師父李十六盞灯。了強明月出山頭。受礼者の法名、接代香烟、上也不差下也不錯、証明、証明。

儀礼分節	内 容
	<p>本方地主、本部廟王の神名部分は元宵神動、土地公、土地婆、金剛大将、過往神童、求財八保郎君のグループ、鑑斎大王、天斗星、七星姐妹、把門將軍のグループごとの神名に置き換えられる。</p> <p>李十六の部分は李十二及び李十一に置き換えられる。</p> <p>室内側に向かって元始天尊、靈宝天尊、道德天尊、玉皇聖主、張天師、李天師、鑑斎使者、十殿閻王、天府地府陽間水府、王靈官、馬元帥、上路天兵、下落地將、綵壇太歳、太歳衆官、海番張召二郎、唐葛將軍、三廟聖王、陰陽師父、上壇兵馬、下壇兵將、福江盤王、五竜司命灶君、宅住竜神、衆祖家先、神王神將、仙姑姐妹の神名を入れ同様に唱える。3回ずつ唱えるが3回目は仙姑姐妹から元始天尊へ神名を逆に唱える。</p>
11. 掛三灯	<p>灯火を竹の灯架に置く。</p> <p>以下のように唱える。</p> <p>鑑斎大王、天斗星、七星姐妹、把門將軍、三廟聖王、陰陽師父、上壇兵馬、下壇兵將、福江盤王、五竜司命灶君、宅住竜神、衆祖家先、神王神將、仙姑姐妹、元始天尊、靈宝天尊、道德天尊、玉皇聖主、張天師、李天師、鑑斎使者、十殿閻王、天府地府陽間水府、王靈官、馬元帥、上路天兵、下落地將、綵壇太歳、太歳衆官、海番張召二郎、唐葛將軍、12名の度戒儀礼の祭司の名及び新掛師男受礼者の法名を続ける。</p> <p>掛起 第一盞明灯李十六盞灯 李十六盞明灯常念頭 師男受得師父李十六盞灯 了強如月出山頭 第二盞明灯李十二盞明灯 李十二盞明灯常念長 師男受得師父李十二盞明灯 了強江水一缸長 第三盞明灯李十一盞明灯 李十一盞明灯常唸經 師男受得師父李十一盞明灯 了強如水一缸青</p> <p>最後に今日掛起第一第二第三盞明灯接代香烟と唱えて終わる。</p> <p>祭司が掛灯訣を行ない伝宗接代の意味を表わす。</p> <p>1人の祭司が分担してテキスト『請聖書』（ヤオ族文化研究所資料ナンバーA-32 a）を読誦する。</p> <p>太極分高厚 謹請上属天 人民修正道 壇内作神仙 行滿三千界 時登四萬年 當台開寶殿。金口永流傳 人生須未老壇 内燒炉香 火急甲 速來臨</p> <p>皈依天 正法教 神馬通 妙想慈悲十劫内 天星正法得威勇 回照下壇宮 金宝相 青 雲化 化巍々 照見四邊感大道 闍浮世界度 人民 天下滅邪精 開照請元始天尊降來 臨火急甲甲速來臨 皈依法青雲化化巍々變化三千感大道度 人無數變河沙 宝上坐蓮花 樓台内 高 萬丈 金來裝身著仙衣數白領坐天宮内 下照萬方管人民天下滅邪精開召請靈 寶天尊降齊臨 火急甲 速來臨 皈依師感道德 天也尊 老母懷胎八十春 九龍運水洗陽間 頭髮白如銀 道高龍俯付 真有道天仙 知善知凶真御領 玉皇案上共 同心。斬鬼滅邪精 開召請 道德天尊降來臨 皈依真 真法力。威也勇 身著紅袍數白翎 音林邪法滅邪精 玉帝顯神通 除邪打病 下壇前 開召請 師聖降來臨 火急甲 速來臨 皈依礼 妙元聖 真老君 通達四十二年功果滿 武當山上駕青雲 玉帝勅真君 脚踏龜蛇常 輪轉。斬天斬地滅、邪精。開召請 玄天上帝 降來臨 火急甲 速來臨 淨身呪 淨身神呪 靈宝天尊 青龍白虎 隊崑崙○。 朱雀玄武 自威我身 凶穢蕩散 道 氣常存 火急甲 速來臨 淨口呪 淨口神呪 羅千齒神 火三鑿短言 度起 真法 凶穢蕩散 不得留停 火急甲 速來臨 玄天咒</p>

儀礼分節	内 容
起請玄天大聖真	北方壬癸至靈神
金闕天尊靈化身	無上護真武軍
威勇猛力太陰君	即速弥陀焚香請
双精帶枷伏羣魔	萬里紫雲為九地
紫袍金帶佩神通	斬鬼滅邪奉聖宗
六丁六甲護真武	八殿將軍前後奏
消災降福最興隆	皈依一心虔拜請
弦天上帝降來臨	火急甲速來臨
北斗咒	
北斗七星、中天大神	上朝金闕下赴崑崙
調理綱統建乾坤	貪狼巨門六存文曲
破軍武曲大州天界	細入微塵何災不滅
何福不生元皇生氣	來合我身天罡○旨
盡夜常輪各屬小人	好道求靈常見尊儀
顧賜長生高上玉皇	紫微上帝三台生我
來三台養我 三台護我來	道德見行八寶儀
五方小鬼走飄飄火急甲速來臨	
黎十六咒	
奉請助法李十六	啟請仙師小弔官
部領猛將力威勇	双精帶枷伏羣魔
即速到壇來度法	五七朝官為大將
統領三千六方兵	世上人民多敬奉
三台會上有郎名	顯起神通天地動
敲枷打鎖鬼神通	小一部童來報應
書符作法救良民	投狀到壇來接請
行罡不到不會停	玉帝行前吾行後
變成法水變吾身	開壇接請吾師到
威風凜々鎮乾坤	若有邪師為岡雨
燒入爐中罪不輕	白衣使者身着綠
速歸本院陀羅弥	火急甲 速來臨
李十一咒	
起請通天李十一	統領天兵共師來
黃袍猛將萬名伏	出入有名
幡車樹上天兵列	金甲我神
庚申甲子聞召請	來降香壇化利名
李十二咒	
起請通天李十二	兩個星君作証盟
頭戴五雷輕教度	脚踏火磚反火車
走魔世界走世魔	打開天府召亡魂
功曹咒	
功曹土地 神之最靈 陸天達地 出入幽明	
有功之日 文書上請 為吾傳奏 不得留停	
財馬咒	
財馬神咒 天有天靈 地有地靈 陰陽造化	
上得天庭 用火焚化 貫北分明 火急甲 速來臨	
祖師咒	
祖師壇前打起訣	包荷萬象坐壇前
若有家中不正鬼	手拿鉄鎖鬧喧天
若有邪魔反小鬼	且來壇下化為勅
若有邪師來闍法	反刀自斬案中心
玉皇面前親請我	靈兵拾萬救良民
祖師壇前齋下降	除邪岡內走紛紛
別の祭司はテキスト『伝度書』（ヤオ族文化研究所資料ナンバーA-32 b）を読誦。	
太上三通嶺	
齊道救八難	
人名得安康（人明得安樂）	
保人得長生	
解厄 能解太歲厄	
能解太陽厄 太星北斗七元君	
解厄 能解喪門厄	
能解三災厄 太星北斗七元君	
解厄 能解四煞厄	
能解五刑厄 太星北斗七元君	

儀礼分節	内 容
	<p>解厄 能解六害厄 能解七星厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解八難厄 能解九星厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解十惡厄 能解夫妻厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解男女厄 能解生産厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解疾病厄 能解疾病厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解精邪厄 能解虎狼厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解毒邪厄 能解脚踏厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解横木厄 能解呪咀厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解天羅厄 能解地網厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解刀兵厄 能解金木厄 太星北斗七元君</p> <p>解厄 能解火水土厄 能解無果太無位厄 太星北斗七元君</p> <p>即今解過榮發位 榮華位上万年 当堂解過榮發位 人丁興旺万年</p>
12. 退灯	<p>灯明を片付ける。 祭司はテキストを読誦する。</p> <p>一退貪狼反文曲 文曲水中出宝珠 壇前宝法后縁有 法主青青門下寄 二退六存反五曲 五曲水中出宝珠 師男橋上來听法 法主青青門下寄 退了蓋一 (二蓋) 重晋一蓋照師男 若有十方人相請 靈兵去救十方人</p>
13. 撥橋 (補橋)・撥路・撥兵・撥法	<p>布を受礼者の膝に広げる。 祭司はテキストを読誦する。</p> <p>仙人補起陰橋路 白鶴合香掛起來 白鶴合香掛玉帝 掛帝合香掛老君 老君合香掛王母 王母合香掛天師 天師合香掛地師 地師合香掛祖師 祖師合香掛本師 本師合香掛吾師 吾師合香掛師男 若有十方人相請 靈兵去救十方人 自古一世傳一世 自古一人傳一人 子孫代代接香門</p> <p>祭司は撥橋で以下のように唱える。</p> <p>三廟聖主、陰陽師父、上壇兵馬、下壇兵將、福江盤王、五竜司命灶君、宅住竜神、衆祖家先、神王神將、仙姑姐妹、元始天尊、靈宝天尊、道德天尊、玉皇、聖主、張天師、李天師、鑿齋使者、十殿閻王、天府地府陽間水府、王靈官、馬元帥、上路天兵、下路地將、総壇太歳、太歳衆官、海番張召二郎、唐葛將軍、鑿齋大王、天斗星、七星姐妹、把門將軍、本方地主、本部廟王、元宵神功、土地公、土地婆、金剛大將、過往神童、求財八保郎君</p>

儀礼分節	内 容
	<p>当壇新掛師男（受礼者の名）、撥起白布橋梁、白布橋梁、七星橋梁、七星路陽卦陽卦が出るまで卜具を投じる。</p> <p>撥兵で以下のように唱える。</p> <p>神名同様</p> <p>今日、当壇撥起六十份兵将、撥一份留一份、陽卦撥、陰卦保、勝卦照顧</p> <p>撥法で以下のように唱える。</p> <p>神名同様</p> <p>今日、師男当壇撥法、撥給師男（受礼者の名）、求兵相応、山求山意、水叫水霊</p>
14. 分兵	<p>祭司はテキストを読誦する。</p> <p>白布源來有己尺</p> <p>何人抛把小師男</p> <p>白米源來有己斗</p> <p>何人抛把小師男</p> <p>銅錢源來有己十</p> <p>何人抛把小師男</p> <p>白米源來把升量</p> <p>量得三斗共三升</p> <p>白布源來三尺六</p> <p>当堂抛把小師男</p> <p>白米源來三斗六</p> <p>当堂抛把小師男</p> <p>銅錢源來三十六</p> <p>当壇抛把小師男</p> <p>白布当堂抛把你</p> <p>安在龍内做龍衣</p> <p>白米当壇抛把你</p> <p>安在龍内做龍</p> <p>銅錢当堂抛把你</p> <p>安在龍内做龍隣</p> <p>好師男 師男好</p> <p>開你認師不認師</p> <p>認師便把橋上坐</p> <p>師父橋上好抛兵</p> <p>左手抛兵掛弟子</p> <p>右手抛兵掛小師</p> <p>若有十方人相請</p> <p>靈兵去救十方人</p> <p>自古一世傳一世</p> <p>自古一人傳一人</p> <p>香壇裡内來教你</p> <p>子孫代代接香門</p> <p>米と錢 36 枚を銅鈴に入れ、布で包む。</p> <p>以下のように唱える。</p> <p>千兵万馬、雄兵惡将、六十份兵頭、六十份兵将。分兵分将、一斗二斗、三百六十頭。一千两千三百六十千、一万二万三百六十万。七千八百万兵頭兵将。</p>
15. 吹米	<p>祭司は以下の唱えごとをした後、米を受礼者の口に吹き入れる。</p> <p>此米不是非凡米、当壇吹把小師。吹把師男口中入、千年万歳在心中</p>
16. 定陰陽	<p>7 枚の錢を鈴に入れ、裏表を見て三陰四陽が揃うまで投げる。</p> <p>祭司が次のように唱える。</p> <p>神名同様</p> <p>為本作証、今日当壇（受礼者の法名）、新掛師男当壇掛起三盞屋案明灯、接代公位五路香烟、撥兵撥将撥橋撥路、完滿以了。要來定過付準陽、定得三陰四陽、黄金付斷水</p>
17. 退蓮花	<p>受礼者の足下の碗をとける。</p> <p>祭司はテキストを読誦する。</p> <p>左脚又退蓮花朵</p> <p>右脚又退蓮花磚</p> <p>今日今時掛三召</p> <p>屋宰明灯完滿了</p> <p>子孫代代接香門</p>
18. 接香爐	<p>香爐をかがせ伝祖接代とする。</p> <p>祭司はテキストを読誦する。</p> <p>手把香炉共水碗</p> <p>当壇抛把小師前</p>

儀礼分節	内 容
	水碗不断千年水 香炉不断万年烟
19. 学打鑼	ドラの法を伝授。 祭司はテキストを読誦する。 手把銅鑼共面鼓 香門行旺万千年 若有十方人相請 鑼声鼓响付歌堂
20. 学吹牛角 (伝師棍伝卦)	角吹の法・ト具の法を伝授。 祭司はテキストを読誦する。 手把牛角共師棍 当堂抛把小師男 若有十方人相請 菩頭落地定陰陽
21. 学用鈴 (伝牙筒伝銅鈴)	牙筒及び鈴の法を伝授。 祭司はテキストを読誦する。 手把銅鈴並筭筒 当壇抛把小師男 今日投師学法完滿了 行罡脚步轉番番
22. 抬轎子	師棍で受礼者の両脇をはさみ立たせる。 祭司はテキストを読誦する。 門前水 門前江水轉弯弯 門前江水弯弯轉 抬起新掛師男做大官 門前水 門前江水轉滾滾 門前江水滾滾轉 抬起新掛師男做秀才 門前水 門前江水轉翁翁 門前江水翁翁轉 抬起新掛師男做師公 の三つの部分に分け読誦する。
23. 学走罡歩 (伝七星罡歩)	罡歩を伝授。 唱えごとはなし。
24. 学舞学揺鈴	謝師舞の伝授 祭司の1人はテキストを読誦する。祭司としての正道を教える。 請師教 請師教 不教師男教何人 撥兵撥法完滿了 我代師男條破神 我代師男條破鬼 師男学法救人民 要教便教香壇内 我教師男在壇中 教你会 教你会 教你撥兵撥法救人民 救得男安女也安 師父有名我有声 正師教 正師教 正師教子教師男 師男学法隨師轉 行罡学法救人民 有名入得法壇内 邪磨小鬼不敢入壇前 一心一意來教你 不教師男到巳時 十字路頭掛大榜 正是師男学法師 正心正意來教你 問你有心有○心 你若有心我有意 香壇撥法教師男 三十六兵撥把你

儀礼分節	内 容
	有行天下救人民
	有錢請我我也去
	無錢請我我也行
	○山請我我也去
	○海請我我也行
	若有十方人相請
	時時勇付付師男
	師男藏身去救病
	救得男安女也安
	小鬼不見師男面
	邪師不見師男身
	天兵得見好名字
	師男名字掛天門
	不圖香花圖○貴
	且圖名字大普傳
	宗祖家先魏魏坐
	下壇兵馬做証盟
	撥兵撥法完滿了
	時時有法付師男
	日裡又發千兵馬
	夜裡又法万兵行
	問在今朝人相請
	千兵万馬付師男
	請師教 請師教
	正師教男教好人
	正男是好教好子
	師男不教教何兒
	請師教 請師教
	正是好男教好兒
	正是好兒教好子
	師男不教教何人
	師男多代新掛師男條破鬼
	流鄉過界救人民
	師父多代新掛師男條破神
	流鄉過界救人丁
	行罡轉步去番番
	代兵去救十方人
	以下の唱えごとを加える。
	為吾今日今時有好有商、奉為新掛師男。掛起三盞屋案明灯、撥兵撥將撥橋撥路完滿了。安安遊遊坐香壇、遊遊香壇坐。一朝一夜婦各位起馬回轉各帰堂
	祭司の1人は、以下の唱えごとを行なう。
	令過父母大堂衆聖三廟聖主、陰陽師父、上壇兵馬、下壇兵將、福江盤王、五竜司命灶君、宅住竜神、衆祖家先、神王神將、仙姑姐妹、元始天尊、靈宝天尊、道德天尊、玉皇、聖主、張天師、李天師、鑿齋使者、十殿閻王、天府地府陽間水府、王靈官、馬元帥、上路天兵、下路地將、総壇太歳、太歳衆官、海番張召二郎、唐葛將軍、鑿齋大王、天斗星、七星姐妹、把門將軍、本方地主、本部廟王、元宵神功、土地公、土地婆、金剛大將、過往神童、求財八保郎君、安坐位。引帶新掛師男條破神

宗教職能者となる受礼において重要な儀礼である掛家灯儀礼の進行内容は、度戒儀礼の最高の職位を与えられるために12の灯明がともされる掛十二灯儀礼の程序と盤家で実施された3灯がともされる掛三灯儀礼の程序さらに馮家で実施された掛三灯儀礼の程序から儀礼分節名を抽出して並べることによって比較が可能となる⁽⁶⁾。表2から分かるように儀礼を構成する分節名は異なったり省略しているものがあるが、使用されているテキストや儀礼の内容や祭司者の所作から判断するとほぼ掛家灯儀礼の構成要素は一定といえる。儀礼分節ごとに使用される経典から読み取れる内容と実施されている所作内容は一致している。つまり経典は儀礼の意味を解説している。

度戒で行なわれた補掛三灯を基準にして考えると、盤家で実施された掛家灯と馮家で実施された掛家灯では、儀礼分節の蔵身・変吾身・起寸・収伏断・定陰陽の順序に若干の入れ替えが見られる。これは受礼者の姓とかかわりがあるかどうか、つまり馮姓と盤姓の違いで、儀礼分節に差異が

表 2 掛灯儀礼程序比較表(5)

補掛三灯程序		2011年盤家掛家灯部分程序		2006年馮家掛家灯部分程序		掛十二灯程序	
番号	儀礼分節	番号	儀礼分節	番号	儀礼分節	番号	儀礼項目
1	請師						
2	勅変水	1	勅変水	1	勅変水		
3	勅変米	2	勅変米	2	勅変米		
4	勅変布			3	勅変布		
5	勅変銭			4	勅変銭		
6	勅変櫓	3	勅変櫓	5	勅変櫓	1	勅変櫓
7	打櫓	4	打櫓	6	打櫓	2	打櫓
8	昇櫓	5	昇櫓	7	昇櫓	3	昇櫓
9	穿衣	6	穿衣	8	穿衣	4	穿衣
10	踏蓮花	7	藏身	9	踏蓮花	5	収伏断
11	収伏断	8	踏蓮花	10	収伏断	6	踏蓮花
12	藏身	9	変吾身	11	藏身	7	藏身
13	起寸	10	起寸	12	起寸		
14	変吾身	11	収伏断	13	変吾身	8	変吾身
15	昇灯	12	昇灯	14	昇灯	9	昇灯
16	掛三灯	13	掛三灯	15	掛三灯及取法名	10	掛十二灯
17	退灯	14	退灯	16	退灯	11	退灯
18	撥橋(補橋)・撥路・撥兵・撥法	15	撥橋・撥路・撥兵・撥法	17	撥橋(補橋)・撥路・撥兵・撥法		
19	分兵	16	分兵	18	分兵		
20	吹米	17	吹米	19	吹米		
21	定陰陽						
22	退蓮花	18	退蓮花	20	退蓮花	12	退蓮花
23	接香爐	19	接香爐	21	接香爐		
24	学打鑼	20	学打鑼	22	学打鑼		
25	学吹牛角(伝師棍伝卦)	21	学吹牛角	23	学吹牛角(伝師棍伝卦)		
26	学用鈴(伝牙筒伝銅鈴)	22	定陰陽	24	定陰陽		
27	抬轎子			25	学用鈴(伝牙筒伝銅鈴)	13	抬轎子
28	学走罡歩(伝七星罡歩)	23	学走罡歩	26	抬轎子	14	教会首走正道
29	学舞学揺鈴	24	学用鈴(伝牙筒伝銅鈴)	27	学走罡歩(伝七星罡歩)	15	謝師
		25	学舞学揺鈴	28	学舞学揺鈴	16	求師
						17	開天門

生じているかも知れないが、これについては今後確かめなくてはならないところである。しかし儀礼分節ごとに使用されるテキストは一致しており分節の入れ替えがあらうと分節ごとの中身はかなり固定化しているといえる。

唱えごとでは「補掛三灯」とある部分は12灯をともし場合は「十二盞大羅明灯」に置き換え、また3灯をともし掛家灯の場合は「掛三灯」に置き換え唱えられる。掛灯儀礼は、儀礼を構成している各儀礼分節ごとに使用されるテキストと唱えごと、所作においてかなりしっかりと中身が決められているといえる。

もちろん掛十二灯は掛三灯のイニシエーションを経た上で行なわれるので、撥橋・分兵・吹米・定陰陽・接香爐・学打鑼・学吹牛角・学用鈴・学走罡歩・学舞学揺鈴の方術の伝承はないが、その代わり最も高度なレベルの方術の開天門の伝授がある。「請師教」からはじまる祭司としての正道を教える部分は掛十二灯においても経典が読誦され唱えごとも行なわれる。

掛灯儀礼の前後の儀礼分節を見てみると、馮家と盤家では上光が前で行なわれるか後で行なわれるか等違いが見える。これについては今後の課題として残されている。

3. 儀礼の構成について

湖南省藍山県ヤオ族に伝承される神像の描かれた軸が掛けられた祭壇が設えられ実施される大・中・小規模のそれぞれの儀礼を構成する要素を比較すると、共通する骨組みをもった上で各儀礼の目的に即した特徴ある肉付けがされていることが明らかである⁽⁷⁾。

1) 度戒儀礼⁽⁸⁾

構成要素を分析する大規模の儀礼として 2008 年 11 月 26 日～12 月 10 日（旧暦 11 月 2 日～16 日）に漣源郷湘藍村で実施された度戒儀礼を事例とする。

ヤオ族の男性は必ず宗教職能者となるイニシエーションを経なければならないとされ、宗教職能者としての法名を得てはじめて家を継承する資格つまり先祖の祭祀を行ない死後祭祀を受ける資格を獲得することになり、法名は代々の先祖の法名が連記される家先単に加えられる（掛家灯儀礼）。その上でさらに宗教職能者としての段階の最高位を獲得するために行なわれるのが度戒儀礼である。度戒儀礼以前に掛三灯の掛家灯儀礼を経なければならないが、まだ実施していない場合は、度戒儀礼の中で補掛三灯儀礼が行なわれる。さらに十二灯をともし掛十二盞大羅明月灯儀礼が行なわれ最高の方術の開天門が伝授され、いくつかの試練を受け、戒を授けられ、最終的に最高位に叙任され上戒の者とされる⁽⁹⁾。度戒儀礼を経ることで、受礼者は大羅殿にいる陰兵の上壇兵馬を獲得すると考えられている。陰兵の獲得状況は神像画の所有枚数でも表現され、掛三灯でまず行師と称される 4 枚（総壇・太歳・海番張趙二郎・三將軍）の神像画を得た上で、さらに掛十二灯を経て、14 枚の神像画を所有できるようになる。神像画は受礼によって獲得した陰兵を表わしているといえ、受礼者は、陰兵を使役し、方術を行なうことが可能になると考えられているのである。

度戒儀礼を進行し、宗教職能者の叙任に必要な受礼を行なう 12 名の宗教職能者は、主醮師、引度師、書表師、紙縁師、証盟師、保拳師、総壇師、座壇師、執香師、茶酒師、吹笛師、鼓楽師と称し役割を分担している。

叙任候補者は 12 名で第一会首から第十二会首と称され、本人ばかりでなく妻、亡くなった親族まで宗教職能者として高位に叙任される。12 名の会首は必ずしも父系の血縁関係にあるとは限らず、地縁的なつながりをもつ者から構成される。

祭場となる建物の醮壇（およそ横 13.3 m、縦 8 m）は、谷の奥まった地を選んで北側を入口として臨時に建てられる。

主祭場正面には祭壇が設けられ、会首の祖先、天地水陽府三元三品三官大帝、昊天金闕至尊玉皇上帝、玉清聖境大羅元始天尊、上清真境玉震靈寶天尊、太清仙境運元道德天尊、中元星主北極紫微長生大帝、上究勾陳十殿承天后化青華長生大帝、上元学法張天大法師官、李天大法師君觀音泗洲上帝、黃道二聖真君龍虎財祿二庫判官、九天東尉監把醮大王、海鬮張趙二郎刀山祖師が祀られる。入口脇に天地水陽四府功曹使者の祭壇、入口外側に今庚太歳過往神童神の祭壇がある。主醮師・引度師・証盟師・保拳師・書表師・総壇師・座壇師が持ち寄った、元始天尊・道德天尊・靈寶天尊・聖主・太歳・十殿・李天師・地府・大海番・海番張趙二郎・把壇師・玉皇・総壇・張天師・三將軍・天府・鑒齋大王・大尉・王靈官・馬元帥の神像画が、複数枚ずつ計 100 枚近く⁽¹⁰⁾、祭壇中央から左右の壁にすき間なく掛けられる。功曹の図は功曹使者の祭壇に掛けられる。文書を準備する書表師の部屋には至聖孔子騰二司先師の祭壇があり、建物奥会首たちの集う部屋にはあの世で叙任する先祖を表わす祖靈旗が祀られる。さらに主祭場には移動式の祭壇の宗教職能者の師匠を祀る花楼がある。

さらに建物前には開天門の儀礼を行なう文台と称される木の板が敷かれた祭場、約 200 m 離れた場所に雲台と称される祭場が設けられる。

建物主祭場から外部に左右に天橋、陰橋と称される布が張りわたされる。主祭場の天井には神に儀礼を報告する文書の榜文が書かれた黄榜・白榜や五色の紙に七言の句が書かれた花牌も張り巡らされる。

榜文や花牌ばかりでなく、儀礼に従って発信される文書を作成する役割を担うのは書表師であ

る。文書は、〇〇表、〇〇引、〇〇疏、〇〇榜、〇〇牌、〇〇状、〇〇文、〇〇符、〇〇詞、〇〇旛、〇〇據と題され、80種300件以上にものぼる。手書きのものもあれば、ワープロで作成されたものもある⁽¹¹⁾。

儀礼の内容は程序に儀礼名をそのまま示したが、文書をはじめとして種々な準備が行なわれ、潔斎し、神を招き、陰兵を招き、願掛けをし、願ほどきをし、奉献をし、宗教職能者となる掛灯を行ない、宗教職能者としての階位を高めるため試練を受け、受戒し、お披露目のパレードをし、精進落としをし、神を送る等から構成される。

2) 還家愿儀礼⁽¹²⁾

構成要素を分析する中規模の儀礼として藍山県所城郷幼江村の盤家において2011年11月16日～11月21日(旧暦10月21日～26日)に行なわれた還家愿儀礼を事例とする。盤家の跡継ぎである盤栄富とその妹婿の盤明古、そして盤栄富の父の妹の夫である盤林古(故人)とその子で栄富にとってはいとこである盤継生・盤認仔・盤新富の3兄弟、計6名が受礼者となり宗教職能者となる法名を得、分家をし先祖の祀りを継承し、自らの法名が家先単に加えられ、祀られる資格を得るために掛三灯儀礼が行なわれる。掛三灯儀礼を経ることであの世の梅元殿にいる中戒の者となり、陰兵の下壇兵将を獲得するとされ、4枚の行師の神像画を所有できるようになる。さらに1991年及び2011年に行なわれた願掛けが成就したことに対する願ほどきの儀礼、さらなる願掛けの儀礼、さらに盤王を祀る儀礼が行なわれる。3人の宗教職能者が招兵師・還愿師・賞兵師・掛灯師と称し、その弟子たちと共に役割を分担し、祭祀を行なう。そのほかに儀礼には、供物を準備し儀礼の段取りを取り仕切る主厨官、文書作成を担当する書表師、歌を担当する歌娘、囃子方の笛吹師・鑼鼓師等の役割を担う者がいる。

祭場は盤栄富宅の庁堂において行なわれ、入口を入れて正面右側に盤栄富の先祖を祀る常設の壇があり、中央に祭壇が設えられ、壁には元始天尊の左右に道德天尊、靈宝天尊を配し、この三清を中央とし、左に聖主・太歳・十殿・李天師・地府・大海番・海番張趙二郎・把壇師、右に玉皇・総壇・張天師・三將軍・天府・監齋大王の神像の描かれた軸が掛けられる。宗教職能者がそれぞれ持ち寄り、複数枚あるものもあり、17種22軸である⁽¹³⁾。祭儀の進行に従って、先祖を祀る壇には紅紙の切り紙が掲げられたり、七星姐妹を祀る祭壇や開天門を行なうための場等が加えられる。祭儀の後半の盤王を祀る祭壇は前半と一変し、神像の軸は外され、正面に盤王を象徴する紅紙を切り抜いた紅羅緞が貼られ、丸ごと豚1頭が供物として並べられ、その上にちまきが置かれ、切り紙の花旗が挿される。

3) 度戒儀礼と還家愿儀礼の程序比較

ヤオ族の全儀礼体系は、大中小それぞれの儀礼における中心的構成要素を核としていると考えるので、大中小それぞれの儀礼の構成要素を抽出し、儀礼相互の構成要素の異同を把握することからはじめたい。大規模の儀礼の度戒儀礼(表3)と中規模の儀礼の還家愿儀礼(表4)における儀礼を進行に従って儀礼を構成する儀礼名を表にして示すことで比較分析を行ないたい。使用テキストは儀礼の進行に欠くべからざる役割を果たしているので表に加えた⁽¹⁴⁾。

2006年に藍山県湘藍村の馮家で行なわれた還家愿儀礼の儀礼は同じ祭司によって行なわれているが、ヤオ族の場合盤姓馮姓の姓の違いによって儀礼が異なる場合があるので改めて確認を行なう。落兵落将、做紙馬錢、告正位家先、檢落脚酒、装堂掛聖像、出牌盞、献香、請聖、許催春愿、浄壇、奏大庁意者、掛家灯、上光、封齋、昇老君機、化変、昇灯、取法名、撥兵撥将、接香炉、撥

表3 度戒儀礼程序

番号	日付	大儀礼名	小儀礼名	読誦テキスト	内容
1	11/26	安壇	收兵／落兵	A-15a『書表書』 A-32a『請聖書』	家先を壇に移す。
6	11/26	供奉	請孔子	A-1『符書』	孔子を招へいする。
10	11/26	安壇	撥三清兵／撥疏表兵／撥橋		兵を發する。
17	11/26	封小齋	求師／封小齋開天門		齋戒
33	11/30	落兵			兵を家先壇に降ろす。
36	11/30	喝落脚酒			開始の酒を飲む。
41	11/30	封大齋	請師父封齋／出排盞／撥橋／撥加 職兵／撥補充兵／封大齋開天門／ 謝師	A-32a『請聖書』	齋戒
61	12/01	認三清	鋪床／引睡／起早／封酒壇／巧婦		神像の軸を裏に向けて 掛ける。受札者の魂を かめに封じる。
77	12/01	出排盞			供物盆を出す。
82	12/01	〔作業〕	做十二宮門 做十二宮対		正面祭壇を作る。
83	12/01	上掛吊			対聯・牒・榜文を天井 に貼る。
86	12/01	上天橋			天橋を架ける。
89	12/01	上陰橋			陰橋を架ける。
93	12/01	喝落脚酒			儀礼の次第を説明。酒 を飲む。
106	12/01	求師	分紙馬		師匠を招へいする。神 像を表に向けて。
108	12/01	勅鑼鼓			楽器を勅す。
111	12/01	拜五方昇鑼鼓			五方を拝す。
113	12/01	拜黄幡・拜白幡			天橋陰橋を回る。
115	12/01	跑堂			祭場を巡る。
119	12/01	請初夜聖	出排盞／請聖／發功曹／下禁壇／ 過馬槽／請聖	A-32a『請聖書』	神々を招へいする。儀 礼の目的経過次第等を 説明する。
165	12/02	請初夜聖	下禁壇／清浄花角／解穢／清浄花 角七声鳴角	A-32a『請聖書』	
171	12/02	円満跑堂			
172	12/02	請聖			神々を招へいする。
173	12/02	上光	出排盞／求師	A-19『賞光書』 A-30a『賞光書』 A-32a『請聖書』	神々を喜ばせる。
193	12/02	開壇	安途落馬	A-32a『請聖書』	神々を招へいする。
195	12/02	初夜黄表 開天門	回兵／謝陰師	A-16a『意者書』	黄表を上奏する。
204	12/02	開壇（安途落馬） （合兵合将）	小運銭／修齋／脱童	A-30a『賞光書』	神々を招へいする。
210	12/02	回兵			黄表の護兵が帰って くる。
213	12/02	補掛三灯	請師／勅変水（米・布・銭・梶）・ 打梶／勅変水／勅変米／勅変布／ 勅変銭／勅変梶／打梶／昇梶／穿 衣／踏蓮花／収伏断／藏身／起寸 ／変吾身／昇灯／掛三灯／退灯／ 撥橋（補橋）・撥路・撥兵・撥法 ／分兵／吹米／定陰陽／退蓮花／ 接香爐／学打鑼／学吹牛角／学用 鈴／抬轎子／学走罡歩（伝七星罡 歩）／学舞学揺鈴	A-15b『伝度書』 A-32b『伝度書』	宗教職能者となる通過 儀礼。
269	12/03	出排盞			
270	12/03	請中夜聖	請聖／進香／奏疏文／跑堂	A-20『請聖書』	神々を招へいする。受札 者の状況、儀礼の目的、 経過、次第、叙任される 職位等を説明する。
329	12/03	磨刀	出排盞／磨刀舞	A-21b『伝度書』	翻刀山の準備。
338	12/03	中夜道場黄表開天門		A-15a『書表書』 A-16a『意者書』	黄表を上奏する。
340	12/03	準備封刀山		A-21b『伝度書』	翻刀山の準備。
350	12/03	謝師父			師匠に感謝。
355	12/03	求師			師匠の助けを求める。
356	12/03	昇刀	昇刀舞／（一座刀山）		翻刀山の準備
360	12/03	翻刀山			陰界に行って戻る試練。
363	12/03	撥刀山			上刀の準備。

番号	日付	大儀礼名	小儀礼名	読誦テキスト	内容
367	12/03	刀山	刀梯舞		上刀の準備。
368	12/03	刀梯舞	刀梯舞		上刀の準備。
372	12/03	謝功曹			功曹に感謝。
375	12/04	試刀梯	勅変刀梯/見葦	A-21b『伝度書』	上刀の準備。
380	12/04	接刀			上刀の準備。
387	12/04	出排盞			
389	12/04	上光	拝師/神頭舞/羅帶舞/跳脚舞/謝神舞/献酒(献三清酒)	A-19『賞光書』	神々を喜ばせる。
390	12/04	請師		会首名簿	師匠を招へいする。
423	12/04	還四府愿	擺大/謝上元/献酒/還紙馬/還紙馬:清数/献酒:献陽人酒/退碗・退供卓/賞浪兵頭/燒紙馬/賞米/燒紙馬/大運錢/修齋舞/分錢/賞浪師父	A-11『請聖書』 A-19『賞光書』	願掛け願ほどき。献上する紙銭を運ぶ。
479	12/04	上光賀星拝斗	出排盞/請十二星君回来/求師/開天門/出兵/合星/拝星/上光賀星/回兵/回堂拝師	A-19『賞光書』 A-30b『意者書』 A-32a『請聖書』 テキスト不明「賀星拝斗科」	北斗星君を拝する。
511	12/05	請末夜聖	出排盞/請聖/回四府	A-11『請聖書』 A-32a『請聖書』	神々を招へいし、儀礼の目的、次第を説明する。
515	12/05	回功曹			功曹を戻す。
540	12/05	跑堂			
542	12/05	掛十二盞大羅明月灯	出排盞/請師/上光/求師/勅変檮/打檮/昇檮/穿衣/収伏断/踏蓮花/蔵身/変吾身/昇灯/掛十二灯/退灯/退蓮花/抬轎子/教会首走正道/謝師	「羅帶「出世」など上光テキスト。 A-32b『伝度書』	最高位の宗教職能者になるために行なわれる。
578	12/05	開天門	求師	A-16a『意者書』	開天門の方術の伝授。
581	12/05	度水槽	求師/勅変水槽/勅変沙板/勅変碗盞/勅変水缸/叩請四府功曹/撥水槽	A-12『伝度書』	陰界に行って戻る試練。
599	12/06	供青詞			青詞を孔子壇に供える。
600	12/06	勅変符			符を勅変する。
605	12/06	求師			
606	12/06	出排盞			
611	12/06	勅変白鶴			神水を勅変する。
619	12/06	上刀山	奏刀梯表開天門/收邪師/貼十二符/勅変脚/賀刀梯歌/拝刀梯歌/上刀梯歌/天曹開天門/飛刀梯歌/勅印/勅変馬板/接老君印/下刀梯歌/開天門/拆刀梯/拝師/撥刀梯	A-12『伝度書』 テキスト不明「賀刀梯」「上刀梯」「飛刀梯」 A-16a『意者書』	剣の梯子に登る試練。
664	12/06	度勒床	求師/勅水/勅棘/勅床/撥勒床	A-12『伝度書』 度水槽に同じ。	陰界に行って戻る試練。
688	12/07	扶罡扶訣(捧火磚)	請師/変火磚/変犁頭/勅変水/歩罡/打火堂	A-1『符書』三十六歩罡のテキスト。 A-12『伝度書』	熱いものをもつ試練。
704	12/07	遊郷	発給/昇職位/出兵/蓋印・辨証件/査紙銭/盤査/過攔路関/通関	A-32a『請聖書』	パレード
728	12/07	大戒文	読戒文		受戒
729	12/07	老君飯			老君飯を食べる。
737	12/07	請師			
740	12/07	奏迎兵表開天門			迎兵を奏する。
742	12/07	回兵		A-32a『請聖書』	
743	12/07	招兵			兵を招く。
744	12/07	謝師			
746	12/08	添名押字			道ふさぎ
750	12/08	奏青詞	出排盞/請師/奏青詞開天門/賀青詞/開天門(関天門)/拝師・謝師	A-16a『意者書』	青詞を奏する。
761	12/08	分兵		A-16b『請聖書』	兵を分ける。
766	12/08	開齋	勅開齋水/請師		齋戒が解かれる。
774	12/08	開禁壇		A-15b『伝度書』	禁壇を開く。
776	12/08	点破宮門		A-32a『請聖書』	祭場を片付ける。

番号	日付	大儀礼名	小儀礼名	読誦テキスト	内容
779	12/08	送孤神		A-31『請聖書』	孤神を送る。
780	12/08	点破宮門・拆榜文		A-30a『賞光書』 A-32a『請聖書』	祭場を片付ける。
781	12/08	謝師	謝師		
782	12/08	勸破宮門		A-30a『賞光書』	
786	12/08	拆破宮門			祭壇を壊す。
794	12/08	送香炉		A-32a『請聖書』	線香立てを処分。
802	12/09	送庫	開天門		祭壇の残骸を燃やす。
804	12/09	求師			
806	12/09	削齋表開天門			削齋表を奏する。
808	12/09	謝師			
811	12/09	拆兵・拆将			兵を解散させる。
813	12/09	收神画			神像の軸をしまう。
817	12/09	合婚・合伙			夫婦の会話が可能となる。
819	12/09	拝師		A-15a『書表書』	受礼者が祭司にお礼する。
820	12/09	帯新度兵回家			受礼者が家に帰る。
825		家でやる儀礼	謝新度兵開天門／招五穀神開天門 ／安置兵		五穀豊穰を祈願する。
828	12/13	送船	求師／開天門		除災

表4 還家願儀礼程序

番号	日付	大儀礼名	小儀礼名	読誦テキスト	内容
40	11/16	落兵落将			祭司が各自連れて来た陰界の兵を施主の家先壇に入れる。
44	11/16	脱鞋酒			祭司と施主と厨官が酒を飲む。
45	11/16	做紙馬			神に献上する紙銭作り。
46	11/16	石鑿錢酒（做緋酒）			さらに手伝いの人も交え酒を飲む。
50	11/16	写愿簿			家先単作り。
52	11/16	紙馬進堂			祭司紙銭を家先壇に置く。
54	11/16	落脚酒			祭司及び受礼者、厨官、歌女等酒を飲み、祭司は自身の資格、儀礼の趣旨説明を行なう。
55	11/16	掛聖			神像の軸を掛ける。
56	11/16	冷排盞			厨官が供物盆を出し礼拝。
59	11/16	点香			厨官が線香灯明を家先壇に供える。
60	11/16	羅鼓開始			囃子方の鳴り物が始まる。
61	11/16	恭賀主家			祭司から施主への祝金が準備される。
65	11/16	昇香			厨官が祭壇を整え、祭司が線香を壇に供える。
78	11/16	安祖先（安家先）			分家に香炉を分け祖先を迎える。
98	11/16	接外祖			妻方の祖先を迎える。
115	11/16	写家先对聯			
116	11/16	請聖	三請／催春愿／洗淨	A-32a『請聖書』 B-8『意者書』『三座還愿保書』 Z-18『請聖書』	祭壇に神々を招へいする、儀礼の目的、経過、式次第を説明。祭場を清める。
138	11/17	做紙馬			紙銭作り。
146	11/17	添香			厨官が線香と灯明を供える。
147	11/17	準備五穀幡			五穀幡を準備。

番号	日付	大儀礼名	小儀礼名	読誦テキスト	内容
148	11/17	入席			囃子方の鳴り物。
162	11/17	請聖	大厅意者／安洞落馬／謝神舞／定陰陽	A-32a『請聖書』	神々を祭壇に招へいする儀礼の経過、式次第を説明。
177	11/17	封斎			斎戒の開始。
189	11/17	掛家灯	勅変水／勅変米／勅変櫓／打櫓／昇櫓／穿衣／蔵身／踏蓮花／変吾身／起寸／収伏断／昇灯／掛三灯／退灯／撥橋／撥路／撥兵／撥法／分兵／吹米／退蓮花／接香炉／学打籊／学吹牛角／定陰陽／学走罡歩／学揺鈴／学舞	A-32a『請聖書』 A-32b『伝度書』 Z-13『伝度書』	宗教職能者となる通過儀礼。
249	11/17	入席			
250	11/17	做紙馬			
251	11/17	開壇還愿	上光／接三清／謝神舞／小献酒／請上元／点聖／請七官／献蒸果／排盞／還催春愿／開酒壺／還元盆愿／請上元衆聖／献酒（勸酒）／請埠老／給銭／領酒／添香／証盟酒／退席／擺催春愿／放紙銭／拆愿／退埠老／小運銭／収齋／脱童	A-11『請聖書』 A-32a『請聖書』 不明テキスト 「唐王出世」「五婆伏出世伏靈廟」「接盤王」「本命歌」「地主歌」「元宵歌」「管千歌」「上元」「齊々整々下香壇」「衫破世是運銭…」「李枝子 李枝子…」	神々を招へいしあらためて願が伝えられる。壊れた盆を修復し再び陰兵の受け入れができるようにする。願ほどきが行なわれる。
339	11/18	招兵愿	排盞／冷排盞／請師／還催春愿		神兵を招き、五穀豊穡を祈願して行なわれる。
352	11/18	入席			
356	11/18	招兵愿	昇五穀／開天門／上光接兵／祭五穀魂／祭七星／分兵分旗／準備招五穀魂／接三清／収瘟／勸水／招五穀魂／送五穀魂／招兵旗／分兵旗／収兵／上光／樂兵／分兵／帶兵／拜天門／引帶五穀幡／賀兵／樹五穀幡／踢兵回壇／領席（賞席）／引帶	A-16a『意者書』 A-32a『請聖書』 不明テキスト 「大運銭三清」「聞説今朝有状請○○整々下香壇」「海番」「黄衣対○白衣坐…」「大旗歌」	神兵を招き五穀豊穡を祈願して行なわれる。
505	11/18	還招兵愿		A-11『請聖書』 Z-23『賞光書』 Z-24『賞光書』 不明テキスト 「天府歌」「地府」「陽間」「水府歌」「公王歌」	兵を楽しませるために行なわれる。願ほどきが行なわれる。
616	11/18	大運銭		A-11『請聖書』 A-32a『請聖書』 不明テキスト 「大運銭三清」「一來世得度銭使～」「木橋元在木坑出～」「鉄橋原在鉄坑出～」「玉皇問你銭几貫～」「仙娘出世」「鳴角声々不舌叫～」「脱童歌」「去時得見人種田～」「你把脚魂交付我～」	献上される銭が届けられる。
667	11/18	送孤神			孤神を送る。
668	11/18	鑿牲			豚を犠牲とする。
669	11/18	謝師			師匠に感謝する。
672	11/18	鑿香			線香を供える。
673	11/18	収聖			神像を片付ける。
674	11/19	盤王愿	添香／剪花酒／流楽／唱盤王大歌／開斎	A-32a『請聖書』 Z-15『意者書・歌堂書』 Z-16『賞光書・歌堂書』 Z-19『歌堂書』 Z-26『歌堂書・意者書』 Z-29『歌堂書』 不明テキスト 「把中酒」「世鼓」「自通廟名」	盤王に感謝し行なわれる。

番号	日付	大儀礼名	小儀礼名	読誦テキスト	内容
1009	11/20	盤王愿	唱盤王大歌／退席（下席）／打令放船／解鍵放船／送王	Z-17『歌堂書』 Z-19『歌堂書』 Z-20『歌堂書』 Z-26『歌堂書・意者書』 Z-29『歌堂書』 不明テキスト [還良願答家主声声還良願問何人席上得分明答大王席～]	盤王に感謝し行なわれる。願ほどきが行なわれる。
1130	11/20	拝師			師匠に感謝する。
1135	11/20	散袱酒			祭司、歌娘、厨官等がテーブルに着き、それに対し受礼者が拝礼。
1136	11/20	散袱拝師			祭司に対して受礼者が拝礼。
1138	11/20	唱賀歌		Z-29『歌堂書』	歌娘が歌い言祝ぐ。
1145	11/21	分紅			厨官が肉を分配。
1147	11/21	拆兵	唱拆兵歌	Z-29『歌堂書』	祭司は家先壇から自身の兵を取り戻し、帰り仕度をする。
1159	11/21	奉倉庫			倉庫を作る。
1178	11/21	上馬酒			最後の酒盛り。

法、定陰陽、祝詞、学揺鈴行罡、還催春愿、還圓盆愿、招兵、立祭台・樹五谷（穀）幡、昇五谷（穀）、開天門、祭五谷（穀）魂、祭七星姐妹、接五谷（穀）、樹五谷（穀）幡、上兵、還招兵愿、還盤王愿、儀礼の項目の大小の分け方の違いや、聞き取りから生じた漢字名称の違いはあるが、儀礼の順序と内容は大筋で同じであることが確認された⁽¹⁵⁾。

表中、太字で示したように、大規模と中規模の儀礼を構成する基本となる骨組みは共通する。祭司が祭場の準備を整え、開始の酒を飲み、祭司の資格を告げ、神を招き、祭司の師匠の助けを求め、神に祭りの目的等を伝え、神を喜ばせ、叙任の儀礼を行ない、神に紙銭等を献上し、願掛けをし、神を送り、師匠に感謝し、ねぎらいの酒を飲み終了する構成をとる。

大・中規模儀礼で共通して行なわれる儀礼名とその内容を以下に記す。

(1) 落兵落将

祭司が使役できる陰界の将兵を祭壇に降ろす。

(2) 落脚酒

祭司たちが酒を飲む。祭司の受礼の経歴が書かれた『意者書』を読み、祭儀の願掛け願ほどきの経緯を説明する。

(3) 掛聖／収聖

神画を掛ける／神画をしまう。

(4) 鑼鼓開始

儀礼の節目ごとに鳴らされる囃子。

(5) 封斎／開斎

精進潔斎し、女性との接触を慎む／肉食や女性との接触が許される。

(6) 請聖

『請聖書』を使用し読誦する。神々を招請する。祭儀を行なうに至る経過、目的、受礼者、祭儀の次第について説明、茶・酒・花を献じ、舞を献じる。

(7) 掛三灯／掛十二灯／その他

宗教職能者となり法名を得る儀礼／最高位の宗教職能者の資格を得る儀礼／叙任に必要な諸儀礼（試練・受戒・方術の伝承）。『伝度書』を使用する。

(8) 上光

表5 葬送儀礼程序

番号	日付	時間	大儀礼名	読誦テキスト	内容
3	08/14	午後	落兵 喫落脚酒		祭司が陰兵を降ろす。 儀礼の開始の酒。
7	08/14	午後	掛神画		神像の軸を掛ける。
10	08/14	午後	請聖	A-32a『請聖書』	神々を招へいする。
11	08/14	晩	洗淨発角 請看道場 供飯		祭場を清める。 死者に儀礼を見せる。 遺族が飯を供える。
14	08/14	晩	請聖(3回目)	A-32a『請聖書』	
18	08/14	晩	度亡	B-5『度亡赦罪書』	罪を洗い落とす水を外に買いに行き、橋を渡り室内に戻り位牌を風呂に入れ、この世と縁を切らせる。
27	08/15	午前	上光	A-32a『請聖書』	神々を賀す。
37	08/15	午前	点亡		死者の道具を数える。
40	08/15	午前	抜兵 抜橋		陰兵を死者に渡し、橋を架ける。
45	08/15	午前	開壇	A-32a『請聖書』	陰兵を賀す。
50	08/15	午前	小運銭	A-11『請聖書』	献上する紙銭を届ける。
53	08/15	午前	脱童		儀礼の終了。
58	08/15	午後	出棺		棺を家から出す。
60	08/15	午後	出煞		煞気を払う。
64	08/15	午後	断路		孤神が戻らぬようにする。
68	08/15	午後	卜金鶏		鶏を犠牲にし風水を占う。
70	08/15	午後	埋葬		埋葬。
73	08/15	午後	蓋籠		あの世で使う道具を焼く。

『賞光書』を用い、招請した神々に関する歌を歌い慶賀する。

(9) 大運銭／小運銭

受礼者が献上する紙銭が神々に届けられる。「運銭歌」が歌われる。

(10) 開天門／閉天門

天門を開く、最高の方術／天門を閉じる。祭司は宗教職能者としての受礼の記録を記した『意者書』を用いる。

(11) 拆兵

祭壇を片付け神々を送る。

(12) 求師／謝師

宗教職能者の師匠に助けを求める／助けに対して御礼をする。

(13) 拝師／散糶酒

ねぎらいの酒。

中でも聖請や上光・謝師・求師は儀礼を構成する項目の中で繰り返し行なわれる。神に何度も呼び掛け、その都度神を賀し、宗教職能者の師匠の力を借り儀礼を滞りなく進めようとしているといえる。念には念を入れた極めて丁寧な儀礼の実践である。さらに同儀礼項目で使用されるテキストは共通しており、テキストが儀礼を進めるにあたり大変重要な役割を果たしているといえる。テキストがあることで複雑な儀礼内容の伝承がスムーズに行なわれるように見える。ただし、テキストを見ながら読誦あるいはフシをつけて歌うのに、必ずしもはじめの頁から順に行なうのではない。テキストが儀礼内容のある程度規定してはいるが、あくまでもテキストを扱う宗教職能者が儀礼の一部始終を承知していない限りは進行できないのである。儀礼の規模の大小にかかわらず共通する骨組みをもつことで複雑な儀礼内容をスムーズに進行でき、かつ代々継承することに繋がるのだと

考える。

4) 葬送儀礼

構成要素を分析する小規模の儀礼として藍山県塔峰鎮両江村で2010年8月14日～15日(旧暦7月5日～6日)に実施された、度戒を経ていない趙家73歳女性の葬儀を事例とし、以下に大儀礼名のみ表にして示す(表5)⁽¹⁶⁾。祭壇には総壇・太歳・海番張趙二郎・三將軍の神像の描かれた四軸⁽¹⁷⁾が掲げられる。

大・中規模の儀礼の構成要素の喫落脚酒、掛神画、請聖、上光、小運銭が含まれており、開始の酒、神像の軸を掛ける、神を招く、神を慶賀する、神に供えものをするという重要な骨子となる儀礼は共通して行なわれていることが分かる。

4. 儀礼知識の伝承—上光儀礼を事例として—

神像の軸を掛けて行なわれる祭祀儀礼で必ず行なわれる儀礼分節の上光を取り上げてその詳細を報告することで、儀礼に携わる祭司をはじめとする人々の豊富な儀礼知識が、規模に大小の違いはあれ、日常的に繰り返して行なわれる儀礼生活の中でどのように伝承されるかの仕組みについて探求を進めたい。

度戒儀礼のうち、12月5日の掛十二盞大羅明月灯の直前で実施された上光部分(15時から1時間あまり)を事例とする。正面祭壇前で実施される。主醮師・引度師・証盟師・保拳師が正装に着替える。

主醮師は経典⁽¹⁸⁾(『請聖書』A-32 a)を読誦する。

衆位後生来唱也	拜得祖師為本師
拜得祖師為師父	香坛鑼鼓鬧嘈々
拜得通 拜得通	先々禮拜老師公
拜得祖師為師父	香烟作法正為功
拜得師 拜得師	先々來拜老師爺
香烟礼内拜請你	師郎門内受勞遮
弍拜三清官大道	二拜楊山十九郎
三拜衆村祖師父本師爺	香坛鑼鼓鬧遮々
自古弍 ^上 傳 ^下 伐 ^傳 一伐	自古弍人傳弍人
香烟裡内求師父々	行罡作法靠師爺
白鴿年生一對卵	爺姐生郎獨弍人
行光几位叫作你	行罡脚步轉紛々
身着紅衣拜請你	行罡作法付師郎
度炉度炉一行一步化青龍	二行一步化白虎
三行三步清龍罡	邪莫小鬼步芒々
身着青衣化青魂	身着紅 ^① 衣化紅魂
三魂蓋頭四魂蓋脚	肚中無歌肚中造出
口中無歌口中造出	六丁六甲護吾左右
又差光在此處	

初光便初光	初光便柴初	初二光	初二山
猪馬鹿光	山猪馬鹿不為光		初光便柴初
三初四光	初三初四清油燭蠟		初光便初光
初光便柴	銅鑼明鏡光		銅鑼明不為光
初光便初光	初光便柴		初七初八光 初七
初八七星明月光			七星明月不為光 初光便初
光 初光便柴	太陰太陽光		太陰太陽不為
初光便初光	初光便柴初九	初十光	初九
初十日頭出世光		日頭出世照天照地正為光	
上照三十三天光		下照閻羅地獄光	
前光后光扶々上光		吾奉太上老君急急為令勅	
山頭出世			
差光了々差光了		手執山頭問根源	
山頭出世無出世		山頭出世問根源	
山頭出世何人昼		何人踩昼好山頭	
昼起有頭有眼有人身		太尉衆官進士人	
几個小頭蓋不脫		何人帶起拜陰間	
扶上何人頭上身		何人頭上放毫光	
師是頭上放毫光		邪魔小鬼走分々	

引度師等は鈴・牙簡をもち、立礼、跪礼で礼拝。

主醮師は唱えごと *1 を行なう。

*1 為吾衆壇会首今日今時有好有心請師到壇

望師到壇還奉掛起大羅明灯一求着你歡々遊々座醮壇歡々遊々醮壇座一時求回一齊臨

主醮師は經典の続きの部分に戻り読誦する。

式声奉到衆官殿	二声落馬到回壇
一朝一夜歸功位	起馬轉宮歸功壇

主醮師・引度師等 4 人が「樂神舞」を舞う。ドラの音に合わせて右手に鈴、左手に笏をもち、2 人 1 組で舞う。主醮師は經典の続きの部分に戻り読誦する。

羅帶出世

人話羅帶出世無出世	羅帶出世問根源
借問羅帶何人綉	何人綉起兩頭花
無事流落何物収	有事牒出上手搖
手上搖々打三轉	邪魔小鬼走便遊
羅帶出世有出世	羅帶出世有根源
廣東出得紅紗線々	湖廣出得綉花娘

廣東客人挑來賣
女人數數錢定客買
廣東出得好紅線
十一十二聰明女
兩頭綉起金花朶
女人送把小師男
人々説得□聰明
歌堂牒出樣神意
一条羅帶復兩行
三条羅帶攔腰扶
師男頭上護三头
正是頭上放毫光

挑到郎村賣紅絨
女人買起綉羅花
湖廣^女好人好聰明
十三十四繡羅花
毛藍飄帶在中央
歌堂牒出把人看
能對黃龍現上灘
紅絨羅帶兩頭番
二条羅帶落双々
扶上師男頭上身
邪魔小鬼急行遊
邪魔小鬼走紛々

主醮師は*1の唱えごとを唱える。

主醮師は經典の続きの部分に戻り読誦する。

一聲奉到衆官殿
一朝一夜歸功位

二聲落馬到回坛
起馬轉宮歸功坛

主醮師・引度師等4人は「楽神舞」に加えて「做調脚」を舞う。「做調脚」は穿衣（服を着る）戴帽（帽子をかぶる）打砸（両手を挙げ肘を折り天を支える動作）起衬（左右の肘を上げる動作）压弹出（手訣）騎馬進（馬に乗る手訣）跳左（左に跳ぶ）跳右（右に跳ぶ）打鈴（鈴を鳴らす）の所作から構成され神々が服を整え馬に乗って出掛ける様子を表現する。

主醮師は經典を読誦する。

子丑過了寅卯時
鄉村姐妹微々睡
今朝來早今來早
手把金弓打霧雲^{下上}
式条大路堂々去
一變黃龍飛上天
三變犀牛過西海
式變吾身為天子
三頭上髮
脚踏鉄鞋戴鉄帽
飛馬上天為天子
日月天星為天子
四辺岸山無万丈
立在化山黃帽嶺
吾師式夜遊山過
轉生器

鄉村姐妹睡微々
郎在湖南受孤栖
四辺雲霧不曾開
彈得□辺雲霧開
回來赴我小童身
二變金雞水裡眠
四變仙人水裡來
二變吾身万丈高
四脚下毛
金身金甲着金袍
功曹山海化龍王
功曹山下滅邪精
鉄缸流過十三灘
黃帽黃土式堆泥
遊過天下不回歸
式合式合^{下上}牙合去

左脚又踏黄龍殿
 師郎踏上坛前去
 王母托香奉日值
 老君托香奉上界
 未着黄衣童使者
 三同白紙蓋郎面
 抬頭看天■不見
 正話面前去不得
 太尉南朝[㊦]李十六
 拜得九郎開方殿
 前放毫光式丈二
 兩放毫光共二丈
 叫我祖師随我去
 前語含虚□含虚
 大缸行過大缸脚
 若有邪師來鬪法
 行罡便行師祖罡
 執訣便執祖師訣
 学法更学老君法
 老君得法傳天下
 牛月作缸下海去
 人話鵝毛清水大
 起頭望見李三■
 世上凡人我不愛
 日值功曹随我去
 父母本錢三百貫
 拜得陰間三百后
 海洋灘頭有灵鬼
 有人殺猪去祭鬼
 三斤猪肉都吃了
 大王面前打三筭
 我兄拍手呵々笑
 初一開缸作伏断
 大哥說話不回水
 缸頭伏在沙洲上
 日裡出来黎七拜
 黎得七村七十七
 皇帝借問廟祝道
 我兄不敢問前路
 三哥得官殿上坐
 皇帝封官你不做

右脚又踏龍鳳坛
 坛前香火起紛々
 日值托香奉老君
 師男下界救良民
 着了黄衣童起身
 面前海岸不通行
 低頭看地々朦々
 回来四辺暗忙々
 叫我着衫拜九郎
 九哥殿上放毫光
 後放毫光八尺長
 小師流過在中央
 又叫我本師随我行
 話着紫微立兩行
 小缸行過小缸忙
 押過天曹地獄門
 莫行式步落空亡
 訣轉閻山鬼滅亡
 莫学邪師法不真
 □辺要度九年春
 海水奔波不湿身
 鉄事缸流過十三灘
 玉女把缸入海身
 我愛南轉八面人
 功曹出世有根源
 想愛做官拜陰間
 未曾見過海洋灘
 海裡灘尾有靈神
 空買猪肉兩三斤
 空將錢紙祭灵神
 筭子紛々打太陽
 這般筭子有金銀
 初二開^{下上}作缸暗金
 兄弟說哥不小心
 缸尾落在海中心
 夜裡出来黎七村
 得見皇帝在金鑿
 你是何州何縣人
 小哥在係便躬身
 四歌眼泪落紛々
 青原前門做狀人

一日便做千張狀	不 系知何狀告何人
人話功曹不得力々	功曹得力走紛々
鉄舡流過東西海	狂風猛雨打流舡
兄弟二人落水死	二人年命落歸陰
海洋灘頭有灵鬼	海尾灘頭有灵神
上界玉皇不得見	差下功曹四真神
弍時奉得衆官殿	回來又到我坛前
上界功曹李文堯	為吾傳奉上天庭
中界功曹李文官	為吾傳奉上天門
下界功曹李文康	為吾傳奉上天堂
陽界功曹李文真	為吾傳奉上天庭
天庭地府郎傳奉	弍時奉傳不同勞
天堂便有三條路	一條通到老君門
二條通到郎坛下	真來真去問根源
年儻月儻是功曹	身騎白馬假双刀
或在陽間或在天々	或在三清玉帝前
家主今日還良愿	飛雲走馬入坛前

主醮師は*1の唱えごとを行なう。

主醮師は献酒を行なう。唱えごとをする。

青天白日白日青天衆壇会首有好有心請師到望師到壇奉還做样大事呀青天白日白日青天衆壇会首
有好有心請師到壇還奉掛起十二盞大羅明灯有金郎無金郎金郎也有木郎也有請出酒十二盞献

主醮師はテキストの続きを読誦する。

行過灘頭鯉魚洞	風過木頭木又清
鳥鴉過天番復叫	郎来路遠為師請
師郎出門小無初茶信	小無良信我不来々
良信流落香坛内	良信請郎我正來
話得真 話得同	手拿銅錢月々紅
一手拿銅娘入門	一心傳望德聰明
正月邀娘去種竹	二月挑糞去翁根
三月竹頭生大笋	四月竹笋脱了身々
五月開枝生大葉	六月清々是半年
七月邀娘去斬竹	斬歸平地圍金變
圍得金變請師者	功曹下馬弍時間
功曹到 功曹到	□辺羅鼓轉雷聲
雷聲不是雷声様	正是功曹坐上廳
功曹到了玄坛上	玄坛接了献龍漿
明花献了銅花献	銅花献了献明香

有疏用此二路	無疏不用
家主仔 家主仔	問你有書又無書
有書便把書來誦	無書便把酒來貪
莫放功曹正使者	口中依者得分明
依者分明話得好	還官任々坐坛前
后用金坐	
郎來借問金鸞坐	問你金鸞金寶金
金鸞寶金打流乱	□辺孤寒笑陰陽
坐落櫓頭有盃米	借你龍盃酒礼來
你把酒盃來獻我	我把漿酒獻你神
獻你引光童子鬼	獻你功曹使者神
引光童子都來領	化光童子來領情
光處到來暗中吃	又怕外頭又來人
人話銅盃分一盞	又怕人多分不完
手拿酒盞獻衆聖	多々少々獻灵神
今轉吃茶又吃酒	借問過江過渡錢
今朝行過江河渡	渡子聲々要討錢
身上無錢過不得	大者把郎裙脚錢
裙脚不是牛皮做	正是紅羅便大錢
下々去 下々遊	式封銀錢纏過腰
老人過路買茶酒	後生過路買茶吹
式文也是過街寶	二文也是過街吹
三文四文為功德	便成紅火化歸天
化歸化天化歸天	化歸陰府結良緣
你把南山來落地	南山落地定陰陽
双童吹双火	双火听双音
平地晒水番復晒	晒了番歸倉裡眠
引光化光童子々	便橋化橋童子々
張面紅面將軍	變身化身童子
吹酒便吹双盃酒	莫吹双盃保老開
吹了双盃微々醉	微々正醉不知天
藏又藏盞又盞々	占上黃龍占上灘
黃龍上灘打一夢	禮々令々式身千
但听兩名伏童把盞了	復去復微復在香坛
巍々坐寬々遊々坐香坛	収領便収領情茶日大明

引度師等3人は酒杯・牙筒をもち、鈴を振る。杯の酒をまき捨てる。引度師は紙銭を1枚燃やし、後ろに捨てる。

以上、上光儀礼の構成を概観すると、儀礼の進行を規定しているテキストの読誦に加え、唱えごと及び舞がはさまれており、伝承媒体を異にする身体コミュニケーションとテキストによる伝承が複雑に組み合わされていることが分かる。

テキストには祭司のいでたちの由来が問答形式で解説されており、ヤオ族にとっては当たり前の神話的知識が示されている。同時に舞によっていでたちが視覚的にも表わされることで、より確かに認識されるようになる。唱えごとは、実施されている祭祀の主旨を反映した内容となっている。

ヤオ族の神像が描かれた軸を掛けて実演される儀礼は、すべての儀礼に共通する骨組みをもった上で各儀礼の目的に即した特徴ある肉付けがなされている。

共通して行なわれる儀礼分節で使用されるテキストは同一である。骨組みが同じであることは、どんなに複雑な儀礼にも対応できる基礎を備えていることになる。なおかつテキストが儀礼を規定している側面があり、複雑な儀礼の継承を可能にするにあたり大きな役割を果たしているといえる。ただし儀礼の実践の場において、テキストの使用にあたっては祭司者の知識や経験が不可欠であるといえる⁽¹⁹⁾。

テキストの記述内容に見られるように、近い家の先祖から遠い祖先神、さらに道教や梅山教や民間信仰等起源を異にする種々な神々が伝承と密接に関係して把握されており、宗教職能者として叙任される儀礼においては道教系の神々が主とされ、家々の願掛け願ほどきは盤王をはじめとする神々が主とされるように、祭祀の目的によって神が選ばれる。儀礼の実践ではシンクレティックな神々に関する伝承が繰り返され、神々に対する知識が確認されている。

上光のように、神像画を掛けて祭壇が設えられる儀礼で必ず行なわれる儀礼分節は、ヤオ族にとって最も重要な神々に関する知識の伝承の場である。テキストと身体表現とが不可分に密接かつ複雑にかかわっており、儀礼の実践で繰り返されることで極めて豊富な儀礼知識が伝承されているのである。こうした儀礼分節ごとのしっかりとした伝承基盤が存在してはじめて度戒儀礼のような大規模の儀礼が実施可能となる儀礼知識の伝承が実現しているといえる。

注

(1) 2008～2011年度科学研究費補助金基盤研究(B)「ヤオ族の儀礼と儀礼文献の総合的研究」、2012～2014年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「ヤオ族の儀礼知識と儀礼文献の保存・活用・継承」、トヨタ財団2009年度アジア隣人プログラム特定課題「アジアにおける伝統文書の保存、活用、継承」を獲得し調査研究を進めた成果である。

(2) 廣田律子『鬼の来た道—中国の仮面と祭り—』玉川大学出版部 1997年

(3) 松岡心平は「舞台上に登場する神や鬼や人物に扮してそれらしい姿態や行動を再現するという意味で、現在の演技の観念に近い」と解説し(松岡心平「物まね」『国文学 解釈と教材の研究』第40巻第9号 学灯社 1995年 198頁)、『日本書紀』神代下第十段(一書第四)にある、溺れる様の物真似が隼人舞の起原とされる例を引き、征服された異民族が服従を誓う芸能を捧げるが、捧げられた内容が模写の演技であるとし「模写の演技を担う者の周縁性の問題が、古代に発して現代に至るまで流れている」とし、世阿弥のいう物真似の物について「超自然的存在である神や精霊や鬼などを示す」と論じている。さらに金賢旭は、大笑いすることが、敵や悪霊を退散させる呪術であるとされることを踏まえ「古代において服属者が演じる滑稽な物真似は、穢れをはらう意味合いをもって行われていた(金賢旭『翁の生成—渡来文化と中世の神々—』思文閣出版 2008年 17頁)」とする。

折口信夫は、似せて作るの意の「もどき・もどく」を芸能の発生に結びつけて論じているが「翁の発生」の中でその意味について、

もどくと言ふ動詞は、反対する・逆に出る・批難するなど言ふ用語例ばかりを持つもの、様に考へられます。併し古くは、もつと広いもの、様です。尠くとも、演芸史の上では、物まねする・説明する・代つて再説する・説き和げるなど言ふ義が、加はつて居る事が明らかです。

としている(『折口信夫全集』第2巻 中央公論社 1995年 383～384頁)。

(4) 神奈川大学歴史調査報告第12集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告I』神奈川大学歴史民俗資料科学研究科 2011年 37～45頁から引用。

(5) 神奈川大学歴史調査報告第12集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告I』神奈川大学歴史民俗資料科学研究科 2011年 37～45頁から引用。

- 科学研究科 2011年 37～45頁、廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第121号日本道教会 2013年 4～5頁を参考に作成。
- (6) 吉野晃がタイの事例を加え対照表を作成している。『瑶族文化研究所通説』第3号 ヤオ族文化研究所 2011年 40頁
- (7) 廣田律子「構成要素から見るヤオ族の儀礼知識—湖南省藍山県過山系ヤオ族の度戒儀礼・還家愿儀礼を事例として—」『國學院中國學會報』第58輯 國學院大學中國學會 2013年 1～25頁
- (8) 詳しい報告及び関連の論文は、『瑶族文化研究所通説』第1～3号 ヤオ族文化研究所 2009～2011年、神奈川県歴史民俗調査報告第12集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅰ 神奈川県大学院歴史民俗資料学研究科 2011年、『ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム予稿集』ヤオ族文化研究所 2010年、『第二届国际瑶族传统文化研讨会—资源与创意—会议论文集』ヤオ族文化研究所 2012年 を参照されたい。
- (9) 藍山県の宗教職能者によれば、世界はあの世の陰間とこの世の陽間に分かれていると考えられている。すべての存在は陰魂と陽魂を有していると考えられており、陰陽がヤオ族にとって貴重な概念といえる。
- (10) それぞれの受礼の状況に合わせ、主醮師・引度師・証盟師・保拳師・書表師は14枚、総壇師・座壇師は4枚もってきた。加えて引度師は功曹の2枚もってきた。
- (11) 馮栄軍・丸山宏・森由利亜「中国湖南省藍山瑶族度戒科儀的書表執行情序」『瑶族文化研究所通説』第2号 ヤオ族文化研究所 2010年 67～70頁
- (12) 詳しい報告は、神奈川県歴史民俗調査報告第14集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅱ 神奈川県大学院歴史民俗資料学研究科 2012年を参照されたい。
- (13) 3人の祭司は、受礼の状況に合わせ、その役割によって招兵師は14枚、還愿師は4枚、掛灯師・賞兵師は4枚もってきた。2006年馮家で実施された還家愿儀礼では馬元帥の軸を加え、18種であり、貼る順番にも違いが見える。廣田律子『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 2011年 320頁
- (14) 藍山県及び近隣の過山系ヤオ族の度戒儀礼及び還家愿儀礼の詳細な報告は、張勁松『藍山県瑶族传统文化田野調査』岳麓書社 2002年、李祥紅等『湖南族奏鑼田野調査』岳麓書社 2010年に収められているが、今回は、筆者が行なった調査資料のみを用いて構造の検討を行なう。度戒儀礼の程序は神奈川県歴史民俗調査報告第12集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅰ 神奈川県大学院歴史民俗資料学研究科 2011年 3～35頁、還家愿儀礼の程序は神奈川県歴史民俗調査報告第14集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅱ 神奈川県大学院歴史民俗資料学研究科 2012年 34～116頁から作成した。
- 実施した調査に使用され収集したテキストには該当儀礼の次第が記述されているものもありすでに掛家灯儀礼部分については松本浩一により紹介されている（「掛三燈」の儀礼『瑶族文化研究所通説』第2号 ヤオ族文化研究所 2010年 6～16頁）。
- 還家愿儀礼においても請聖儀礼部分で儀礼の次第が記されたテキストの『三座還愿保書』が読誦される点については丸山宏が言及している。
- 本論ではテキストの記述から儀礼を再構成することはせずにおく。儀礼名の太字は儀礼骨格をなす重要部分を示す。
- (15) 廣田律子『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 2011年 321～333頁
- (16) 『瑶族文化研究所通説』第3号 ヤオ族文化研究所 2011年 88～90頁 蔡文高作成の葬送儀礼程序を参考とした。
- (17) 四軸は行師と称され、神像の描かれた軸を掛けて行なわれる儀礼の基本となる。
- (18) 神奈川県歴史民俗調査報告第12集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅰ 神奈川県大学院歴史民俗資料学研究科 2011年参照。
- (19) 北タイのヤオ族（ユーミエン）の村で、掛家灯儀礼を見る機会を得たが、藍山県と同様の内容の漢字経典が使用され、相同の基本的構造をもつ儀礼が進められていた。遠く離れ居住するヤオ族間に相同の儀礼知識が伝承されていることは大変重要な意味を有するといえる。

関連する文献（廣田律子分のみ）

- 1997 『鬼の来た道—中国の仮面と祭り—』玉川大学出版部
- 2000 あじあブックス『アジアの仮面』大修館書店
- 2011 『中国民間祭祀芸能の研究』風響社
- 2013a 「祭祀儀礼に見る旅—中国湖南省藍山県ヤオ族の通過儀礼を事例として—」『旅のはじまりと文化の生成』大学教育出版 210～244頁
- 2013b 「構成要素から見るヤオ族の儀礼知識—湖南省藍山県過山系ヤオ族の度戒儀礼・還家愿儀礼を事例として—」『國學院中國學會報』第五八輯 國學院大學中國學會 1～25頁

- 2013c 「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第 121 号 日本道教学会 1～23 頁
- 2013d 「湖南省藍山県勉系瑤族道教儀式調査研究—以表演性項目為中心之考察—」『「地方道教儀式実地調査比較研究」国際学術検討会論文集』新文豊出版股份有限公司 217～306 頁
- 2013e 「祭祀儀礼と盤王伝承—儀礼の実践とテキスト—」『瑤族文化研究所通訊』第 4 号 ヤオ族文化研究所 123～131 頁